

音楽研究委員会

1 研究テーマ

自ら課題をもって追究し、表現する喜びの味わえる授業

～曲や歌詞からイメージをふくらませ、喜んで表現するための指導はどうあったらよいか。～

2 研究課題

(1) 楽曲に対するイメージを持ち、さらに深めていくための指導

- ・ 楽曲との出会わせ方。
- ・ イメージをふくらませ、深めていく指導。

(2) 楽曲に対するイメージを豊かに表現していくための指導

- ・ 歌唱指導の中で、児童・生徒が心を開いて歌うことができる場作り。
- ・ 自分の思いやイメージを歌唱表現につなげていくための指導

3 指導の実際

研究授業実施：授業日：7月 4日(月) 授業学級：高甫小学校4年敬組

授業者：手塚 恵美子 教諭

指導者：矢崎 進一 先生(山之内東小学校教頭)

題材名「曲の気分を感じて歌おう」

(教材名『まきばの朝』【表現(歌唱)】)

(『白い雲』 【表現(歌唱)】)

学校目標からカリキュラムの決めだし

高甫小学校では、学校目標「明日の日本を担う子ども」を掲げ、音楽科では、聴き取る、感じ取ることの良さや大切さを実感することで、表現力を高めて喜んで音楽活動に取り組む子どもの姿を願っている。今回の授業では、「イメージをふくらませて追究し表現していくこと」を期待し、また、実際の児童の様子からその姿をとらえることができた。

子どものニーズにあった授業展開とその実際

想像したり、イメージをふくらませたりするのが好きでそのことを積極的に伝えることができるが、その表現を聴きあうと表現に関してではなく、意欲や態度面についての感想をだしあってしまう子どもたち。そこで、子どもたちが追究しやすい学習カードの利用や、友達とともに表現の工夫をするグループ活動を行うことで、表現することの良さを感じ、音楽を楽しむ姿につながるように今回の授業を設定した。

本時では、グループの中で自分の歌いたいイメージや表現の工夫(強弱、ブレスの仕方、速度の工夫)などを積極的に歌いながら説明し、聴く側も表現の良さを評価する場面がみられた。

授業評価と授業改善

日頃、集団で表現することが多い歌唱。指導する教師側も「一人一人」より、「全体」に重点をおいて指導しがちである。結果として、一人ひとりの評価ではなく、全体としての評価になってしまいやすいが、表現力をつけるための少人数グループ活動を行うことで個々の力を評価することができる。また、全体指導では、個々の意見が尊重されないケースがあ

るが、この活動では、自分の願いを友達に伝え表現し合うことができる。学習カードの工夫で、歌い方がイメージにあっているか評価する力もついた。実際の場面については項目4を参照にしていきたい。

4 この事例から明らかになったこと

【授業の事例より】

C1：「流れてくーのクレッシェンドは次につなげていくためにやと思う。」

C2：「さっきよりいいね。でもまだ じゃないよ。どこが悪かった？」

C3：「C1さんばかり声出している。もっときれいに。」

C4：「2回目を下げたほうが（弱く）したほうがいい。」

自分のイメージした「白い雲」をもっているためクレッシェンドの必要性和想いが重なっている。(C1)

自分たちの演奏のどこを直したらイメージした「白い雲」になるのか具体的に知りたいと感じている。学習カードの活用法が身についている。(C2)

どのように表現していったらよいのか考えようとしているが、クレッシェンドの奏法について理解できていない。(C3)

同じ言葉が続く場合(さようなら さようなら)は2回目が弱い方が効果的であるということ、今までの体験から感じている。こうした表現するために必要な技能を身につけてから、イメージを追求するグループ練習をすることが必要である。(C4)

【全体のまとめ】

- (1) 学習カードで活動の仕方や表現の観点を明確にすることで主体的に学べる力がついた。
- (2) グループ活動で、意見を出し合うことにより、イメージをふくらませる表現力や、友達の歌声や表現を評価する力が高まった。
- (3) グループ活動をさらに充実するために、自然な発声と音楽的な素地力をつけていく必要がある。

5 来年度への課題

- (1) 児童にイメージにあった表現をするための具体的な手だて。

主体的に学びイメージをふくらませることは出来てきている。基礎基本の中身、音楽の諸要素を知覚し、その働きから生まれる特性や美しさを感じることができるようになることが必要である。体で感じたものを表現していくために何をしたらよいのか分析していく必要がある。

- (2) 楽曲にあった発声法

楽曲に合った表現にするためには、自然な頭声発声が必要である。個々の技能を伸ばしていきたい。